



福島県立梁川高等学校

学校だより

知性 誠実 責任

第 1 号

令和3年4月8日（木）

令和3年度着任式

4月8日（木）梁川高校の令和3年度がスタートしました。今回の人事異動により、9名の教職員が転出し、新たに次の7名が本校の教職員となりました。

校長	近東 昇（理科）	県教育庁高校教育課（主幹）より
教諭	阿部 師久（保健体育）	会津農林高等学校より
教諭	相澤 真弓（国語）	福島西高等学校より
教諭	齋藤 妃呂子（保健体育）	新地高等学校より
養護教諭	神 洋子	福島工業高等学校より
月手当講師	廣瀬 慶一（国語）	福島東高等学校より
時間講師	齋藤 日出子（数学）	福島高等学校より

今年度の梁川高校は、総勢33名の教職員で創立102年目を迎える学校を運営していきます。



第1学期始業式

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響が続いていますが、先生方は、感染症に対して工夫しながら新年度の準備を進めてきました。そして4月8日（木）に、新2年生24名、新3年生28名が登校し令和3年度着任式と始業式を実施することができました。始業式では、校長から以下のような話をしました。

4月5日に水泳の池江璃花子選手が、東京オリンピックの出場権がかかった日本選手権100mバタフライで優勝し出場が内定しました。今から2年前に白血病と診断され命の危機までも経験し10ヶ月の入院治療を経て、昨年3月からトレーニングを開始しての快挙です。レース後のインタビューで「苦しくてもしんどくても努力は報われるんだなと思いました。」と涙ながらに語りました。どんな人でも努力は報われるとは限りません。しかし、どんなに厳しい状況でも前を向き病気に立ち向かい、治療後も強い気持ちを持って練習に取り組んできたことがこの結果を生んだ1つの要因だと思います。逆に、努力をしなければこのような結果にはならなかったと思います。

皆さんも、授業や部活をはじめ様々な学校行事に友人や先生方と一緒に取り組み、努力をすることで自らの眠っている力を伸ばし、目標を達成してほしいと思います。